

子どもの未来につながる今を支える —ライフキャリア支援の成果と展望—

企画者・司会者 大谷博俊（鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻）
話題提供者 大谷博俊（鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻）
山下 幸（徳島県吉野川市教育委員会）
北岡大輔（和歌山大学教育学部附属特別支援学校）
指定討論者 前原和明（秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座）
須田正信（大阪教育大学特別支援教育部門）

KEY WORDS: 特別支援教育 ライフキャリア 教師教育

【企画趣旨】

平成 29 年以降に改訂された現学習指導要領（以下、学習指導要領とする）は、漸次全面実施されており、今年度は中学校においても実施となった。小学校・中学校学習指導要領においては、特別活動を要としたキャリア教育の推進が新たに明示されており（文部科学省,2017）、このことは特別支援学校学習指導要領（文部科学省,2018）においても同様である。

キャリア教育におけるキャリア概念は、キャリア心理学領域の論議とその成果に基づくならば、ワークキャリアを含み、より広義の概念としてライフキャリアを指すのが、今日では一般的である（川崎,2007）。小・中・高等学校全ての教育段階の学習指導要領にキャリア教育が明示されたことにより、ライフキャリアの位置づけが一層明確になったといえよう。

一方、特別支援教育におけるライフキャリア教育実践は、平成 23 年のキャリア教育に関する答申（文部科学省,2011）以降増加傾向にあるものの、キャリアに関する諸能力の育成については、さらなる検証が必要である（大谷・尾関・井上・佐藤・高原・伊藤,2020）。つまり、「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」が求められており（例えば、文部科学省,2017）、どのように学校の教育活動全体を通じて必要な能力を育むのかが問われているといえる。

そこで、本シンポジウムでは教育学だけでなく、職業リハビリテーション分野からの知見を得つつ、ライフキャリアの能力や態度に迫り、さらに教師の支援のあり方についても言及したい。尚、以下の全事例・実践については発表の応諾が得られている。

【話題提供者の趣旨】

「特別支援教育におけるキャリア教育と教師の支援」

大谷博俊

シンポジウムの趣旨を明確にするために、特別支援教育におけるライフキャリア発達支援の実践を整理すると共に、教職大学院での教師教育の成果に基づいて、ライフキャリア発達における支援の要点についての考えを述べる。

「中学校特別支援学級国語科での取組」

山下 幸

大学院におけるフィールドワークで、特別支援学級に在籍する中学生を対象とした国語科の授業実践研究を行った。その取組の 1 つとして、中学校 3 年生を対象に、高校入試に向けた面接練習を行った。面接チェック表（評価表）を導入し、対象生徒が見通しや意欲をもって取り組めるように工夫した。自分の思いや考えを相手に伝えるように話す力の育成を目指した授業であったが、練習を重ねる中で、

キャリア教育の要素も絡んできた。この取組について、キャリア発達の視点から捉え、生徒の発達の支援について深めたい。

「本人とのゴールの共有にもとづくキャリア発達支援」

北岡大輔

高等部段階は青年期前期にあたる。この時期の子どもたちは自分の思いと社会生活で求められることとの狭間でさまざまな葛藤と向き合いながら、自らを成長させていく。しかし、知的障害や発達障害がある場合、自らの内面を客観的に捉えることに課題が生じやすい。そのため、子どもたちのキャリア発達の指導・支援には、まず、現時点の自らの思いや葛藤に目を向け、解きほぐすことができるようにすること、そして、見出された目標を本人と教師が共有したうえで取り組んでいくことが重要となる。このことについて事例をもとに考えたい。

【指定討論者の趣旨】

「職業リハビリテーションの観点から期待されること」

前原和明

職業リハビリテーションとは、職業を通じた社会参加と自己実現、そして、経済的自立の機会を作り出していく取組みのことである。単に在学時における教育としてのみではなく、学校卒業後の社会参加という現実に向けてライフキャリアを支援することは重要と考えられる。この指定討論では、特に「職業リハビリテーション」の観点から特別支援教育におけるライフキャリア教育に対して期待することについて述べていきたい。

「特別支援教育におけるキャリア教育の実践とライフスキルの取り組みに関して」

須田正信

特別支援教育においては、子どもたちが社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性や持ち味を最大限発揮しながら自立して生きていくために必要な能力や態度を育てることが求められる。そこでは、単に就労に向けての態度育成ではなく「暮らすためのスキル」「余暇や楽しみを享受できるスキル」「働き継続できるスキル」の観点が必要であり、学校においてはこの事の視点をもって教育課程を工夫する必要があるといえる。これらのことからライフスキルに関する内容を述べてきたい。

（文献）

大谷博俊・尾関美和・井上とも子・佐藤長武・高原光恵・伊藤弘道（2020）特別支援教育におけるライフキャリアの支援。

本研究は JSPS 科研費 JP19K14286 の助成を受けたものです。

（OTANI Hirotooshi, YAMASHITA Sachi, KITAOKA Daisuke, MAEBARA Kazuaki, SUDA Masanobu）